

平成 14 年 10 月 17 日

経済産業省 製造産業局長

今井 康夫 殿

社団法人 日本電機工業会

会 長 谷 口 一 郎

変圧器等への微量 PCB の混入可能性に関する調査について（中間報告）

平成 14 年 7 月 12 日付製造産業局長通達（平成 14・07・11 製局第 2 号）を受け、当工業会および該当 10 社では、微量 PCB の混入可能性に関する調査及び過去の微量 PCB 検出事例に関する調査等を実施しておりますが、これまでの状況を下記のとおりご報告いたします。

1. 微量 PCB 検出事例について

サンプル調査の過程ならびに顧客からの連絡等により、平成 14 年 9 月 30 日までに以下の 11 社から新たに 280 台の微量 PCB 検出事例の報告がありました。

11 社の内訳は、過去に検出事例がありました指月電機製作所、東芝、富士電機、北陸電機製造、三菱電機、明電舎のうち東芝、富士電機、三菱電機、明電舎の 4 社から再度検出事例の報告があるとともに、混入可能性が否定できないためサンプル調査を実施していた愛知電機、高岳製作所、中国電機製造、東北電機製造の 4 社、及び自主的に調査を実施していたダイヘン、日新電機、日立製作所の 3 社から新たに検出事例の報告があったものです。

なお、愛知電機、ダイヘン、高岳製作所、中国電機製造、東北電機製造、日新電機、日立製作所の 7 社は、新たに微量 PCB が検出されたことから、速やかに原因の解明に努めるとともに、関連ユーザーに対し遅滞なく情報提供を行っております。また、原因解明にあたっては、先行している 6 社と協力しながら原因の解明に努めることとしています。

《新たな検出事例（7 月 12 日から 9 月末迄）》

メーカー	機 種			計	PCB 検出値 (ppm)
	変圧器	コンデンサ	その他		
愛知電機	19	—	—	19	0.51~42
ダイヘン	3	—	—	3	2.7~14.5
高岳製作所	3	—	—	3	2.8~5.3
中国電機製造	9	—	—	9	0.51~21.0
東芝	96	—	12	108	0.4~65
東北電機製造	6	—	—	6	4.1~8.3
日新電機	5	—	2	7	0.36~8.6
日立製作所	4	—	—	4	0.9~2.5
富士電機	44	—	—	44	0.5~32
三菱電機	60	2	10	72	0.4~52
明電舎	4	—	1	5	0.64~1.2
計	253	2	25	280	

2. 微量 PCB 混入の可能性について

東光電気においては、社内の製造履歴および製造工程を詳細に再確認した結果、一部機種 of 修理工程の調査から、不含証明の得られていない再生油（JIS 鉱油）の使用が明らかになり、かつ注油設備の一部を新油と再生油で共用していたため、PCB 微量混入の可能性を完全には否定できないことが判明しました。従い、同社では速やかにサンプル調査の検討を進めることにしました。

3. サンプル調査状況について

微量 PCB の混入可能性に関する調査及び過去の微量 PCB 検出事例に関する調査について、該当各社は、個々に製造時のロット対応あるいは検出事例製造年度対応に検体を選定し、その油を分析して原因の究明に努めるべく活動中です。年内を目標にそれらの調査結果をとりまとめ、原因解明についての検討結果を年度末までに報告の予定です。

(1) 原因解明の調査

指月電機製作所、東芝、富士電機、北陸電機製造、三菱電機、明電舎の6社は、現在調査計画に基づき原因の解明を行っており、本年12月末を目途にサンプル調査結果をとりまとめ、原因の解明についての検討結果を年度末までに報告する予定です。

なお、新たに検出事例が出た愛知電機、ダイヘン、高岳製作所、中国電機製造、東北電機製造、日新電機、日立製作所の7社についても、先行する6社と同様のスケジュールで取りまとめを行います。

(2) PCB 微量混入の調査

愛知電機、高岳製作所、中国電機製造、東北電機製造、富士電機、北陸電機製造の6社は、現在調査計画に基づき絶縁油のサンプリング・分析等を行っており、本年12月末を目途にデータをとりまとめ、原因解明についての検討結果を年度末に報告する予定です。

なお、微量 PCB が検出された場合には、前項（1）原因解明の調査と同様に速やかに原因の解明に努めます。

また、東光電気については、先行する6社と同様の考え方・スケジュールでサンプル調査の取りまとめを行います。

以上